

第6回池田町・地方創生戦略町民会議 ～「すみか」部門③ & 「しごと」部門③～

令和2年9月3日(木)

午後2時～5時

能楽の里文化交流会館 2階大会議室

すみか・しごとに関する基本目標について

地方創生戦略第1章

安心で心地よい暮らしの生活空間を守り生み出す

自然豊かで恵まれた環境にある池田町は、田園生活を営む上で魅力的な条件を備えている。また、もとより人口8,000人が暮らしていた地域には、田園回帰を求めるUIターン者の暮らす居住空間が残されており、かつ、おいしい水や空気の資源も豊富である。これらを守りつつ、心地よい暮らしの環境を町民とともにさらに高めることを目指す。

地方創生戦略第2章

顔が見える地産地消地商の経済を推進し、半農多業化など多様な生業を育む

農村にある地域資源からは、生業的な仕事づくりや、新しいスタイルの商品開発が可能となる。食・観光分野での新たな起業や、半農半Xスタイルでの多様な仕事のあり方が可能となることで、「お金を稼ぐ」と、「個性を輝かせる」ことの両立が実現する。またグローバル化する経済に対抗して地域を守っていくための循環型経済システムの構築に向けて行政がリーダーシップを発揮していく。

生活環境の改善・強化(以前と同じ)

池田町では雪の多さや町外との交通手段の選択肢の少なさから生じる暮らしにくさの緩和に努める。また、豊かで美しい自然・景観の形成に努める。

【政策実施指標の達成状況】

| 重要業績評価指標 | 目標値 | H27年度→H30年度 | 説明 |
|--------------------|-------|---|---|
| 雪対応型の池田型風土住宅の開発・普及 | 開発・普及 | 融雪設備の研究 | <ul style="list-style-type: none"> ・近年の小雪傾向によって、研究が進んでいない。 ・雪対応型の池田型風土住宅の開発・普及がこの項目の評価の指標として適切か？ |
| アンケートなどでの外出面での不満 | 10%以下 | 「充実して欲しい交通手段」は、コミュニティバス40%、有償ボランティア24%、路線バス22%(H29) | <ul style="list-style-type: none"> ・「マイバス」事業を開始し、住民と行政の協働により、京福バス廃線に対応できた。 |
| 池田町の景観不適合看板の設置 | 0件 | 福井県屋外広告物条例不適合 4件⇒1件 | <ul style="list-style-type: none"> ・不適合物件を適切に誘導しているが、景観全体の向上にはいま一歩である。 ・池田町の景観不適合看板の設置がこの項目の評価の指標として適切か？(美しい景観をどう考えるかとの視点が必要) |

地域内循環型経済の活性化(前回と同じ)

【政策実施指標の達成状況】

| 重要業績評価指標 | 目標値 | H27年度→現在 | 説明 |
|---------------------------------|---------|--|--|
| リサイクル率 | 50%超 | 49.5%(H25) ↓ 47.0%(H28) | <ul style="list-style-type: none"> ・環境まちづくりを総合的・一体的に進めた時代に比べて、リサイクル率の低下やごみの1人1日当たり排出量の増加など、循環経済への意識と行動が少しずつ弱体化している状況にある。 |
| 観光入込客数 | 20万人 | 154,088人⇒245,394人 ※観光消費額 401,137千円(H31/R1) | <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込客数は、立ち寄り客も含むため、滞在時間を改善するためには、観光消費額や宿泊客数を増やし、満足度を高めていくことが必要。 ・また、農林水産物の販売額の追跡も必要。 ・宿泊施設は、「冠荘」「ファームハウスコムニタ」「農村de合宿キャンプセンター」「TPAコテージ・樹上テント」。 |
| 宿泊客数 | 10,000人 | 5,004人⇒11,988人 | |
| LM3(Local Multiplier 3-地域内乗数効果) | 向上 | 1.37(H28) | <ul style="list-style-type: none"> ・食費のうちの夕食や惣菜の取り戻し、光熱水費のうちの灯油の取り戻しが有効であるとされながら十分とは言えない。 |

【池田町の部門別の経済規模】

農業 5.6億円(米3億円、野菜1億円等)
福祉事業 約2~3億円

林業生産 約1億円
土木公共建設事業 14.6億円

【町外からの稼ぎ】

23億円と推定(県立大学による調査から)

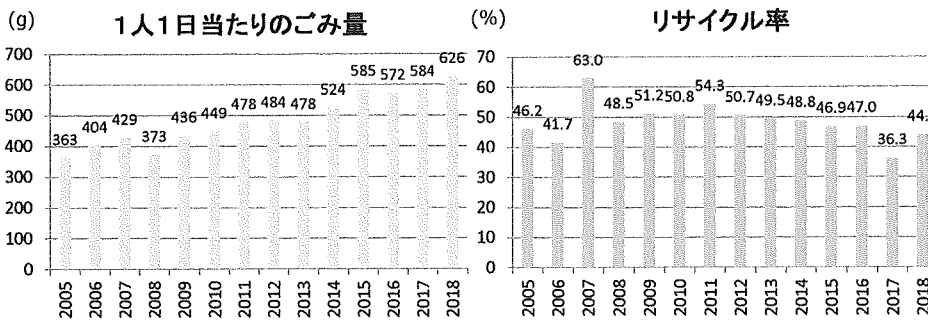
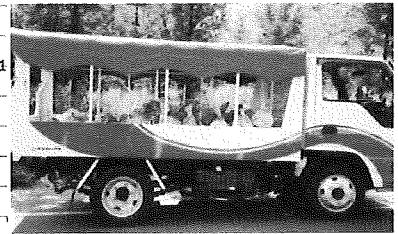
「地域内循環型経済の活性化」の政策評価と今後

■ 地域資源循環

(1) 食Uターン事業の普及・リサイクルの実施

- ・循環型農業は池田町にとっての、「農業政策」と同時に「まちづくり」政策となっている。
- ・資源回収については、PTAや環境団体による資源回収、農協による廃プラ回収、こってコテいけだのエコステーションなどの取り組みを実施している。

※「循環」活動に関わる人の減少やリサイクル率の減少に対し、どのような方法で意識向上や参加度を高めればよいか？

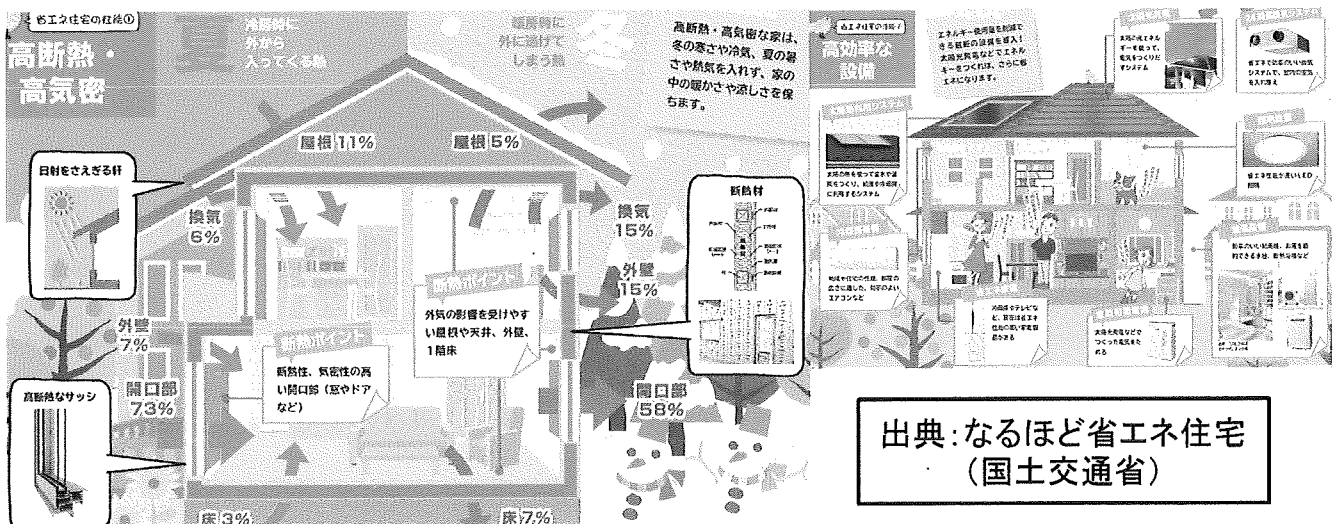


「地域内循環型経済の活性化」の政策評価と今後

■ 地域資源循環

(2) エネルギーの節約と自給

- ・小水力発電を地域自治主導で実施
- ・太陽熱発電やバイオマスエネルギーの導入

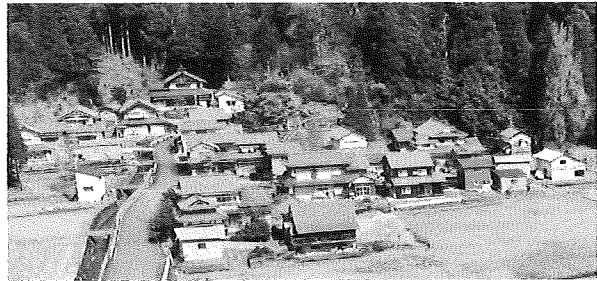
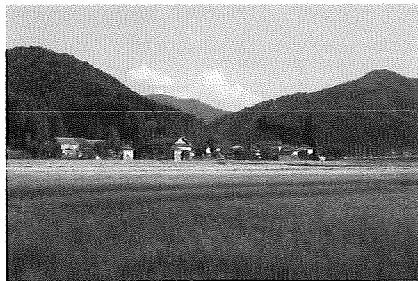


「豊かで美しい自然・景観の形成」の政策評価と今後

■ 美しい景観づくり

(1) 農業・景観向上に向けた新たな政策

- ・農村景観等の「公益機能」に対するの支払制度を検討中だが、日本型直接支払制度(多面的機能支払、中山間直接支払、環境直接支払)で年間5,500万円を措置。
- ・屋外広告物規制などでは、近年難しい案件が発生
- ・今後道路開通に伴い「ファッションホテル看板」等の可能性
- ※農村の「景観」向上のために、地域住民はどう行動すべきか？また、農業者へのさらなる経済支援は必要か？
- ※看板や建物への「規制」と、個人の「自由」な設置・建築はどちらを優先すべきか？



「地域内循環型経済の活性化」の政策評価と今後

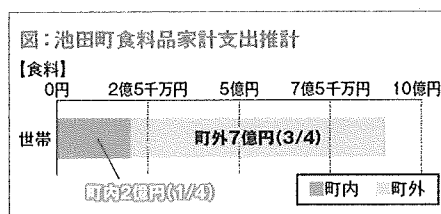
■ 地域経済循環に向けて

(1) 地域消費の拡大について

(2) 地域通貨の積極活用

- ・「いけだ応援券」利用活動(今年度予算:3,559万円)
 - ①ママがんばる手当 708万円
 - ②子育て世帯エコカー購入支援 91万円
 - ③高齢者交通安全支援制度 170万円
 - ④食Uターン回収謝礼 40万円
 - ⑤学生仕送り応援事業 50万円
 - ⑥地域応援券支給事業 2,500万円

※町外での買い物を町内への買い物に振り替えていくのは限界か？まだ方法があるか？



平成27年調査

